

平成 25 年度 長浜市定住自立圏共生ビジョン懇談会要点録

2014/03/11

- 日 時 平成 26 年 3 月 11 日（火）午後 4 時 00 分～6 時 15 分
- 場 所 長浜市役所 東別館 多目的ホール 1・2
- 出席者 （委 員）石井委員、川村委員、西村委員、岸本委員、北村委員、川越委員
手操委員、西川委員、伊藤委員
（事務局）藤居部長、米田参事、山口主幹、菅谷主査、福島主事
- 欠席者 （委 員）桐山委員
- 内 容 以下のとおり

- 1 開会
 - 2 部長あいさつ
 - 3 委員紹介
- } 省 略

4 正副座長選出

- ・座長に石井良一委員が、副座長に桐山輝雄委員が互選により選出された。

5 議事

(1) 審議事項：会議の公開等について

- ・当該会議の公開等については、附属機関等の会議の公開等に関する要綱第 3 条の規定に準じて、公開とすることとした。

(2) 説明事項

- ・定住自立圏構想及びこれまでの市の取組経過について

【資料 3－1、3－2、4、5、6】

事務局説明（省 略）

【意見及び質疑等】

- | | |
|-----|---|
| 委員 | 医療においては少子化は大きな問題で高齢化は更に大きな問題である。資料 3－1 の 2035 年から人口の大幅減とあるが、長浜市の場合、高齢者の数というのはこれから 10 年のうちでだらだらと頭打ちになってくると思われる。この資料の 2035 年でこれだけ減るとするのは 1975 年を起点として単に 30 年、30 年で区切ったもののなのか、それとも 2035 年に何か特定の要因があって 2035 年を示されているのか？ |
| 事務局 | これは国立人口問題研究所が発表している資料である。出生率を固定値として平均寿命が 88 歳まで伸びることを想定して単純計算で出されているもので、様々な要 |

	因全てが反映されているものではない。 2035年に大きな要因があるから2035年で数値が示されているものではない。
座長	長浜市の2035年がどうなるかというものはないか。
事務局	長浜市の2035年は108,900人で、現在の人口が約12万2千人から3千人ですの で、約2万人弱減少するという数値が出ている。
委員	定住自立圏構想を見せてもらって、都市に人口が流れないように今住んでいる地域 で魅力あるようにしていこう、そしてよそからも来てもらおうということかなと思 う。これからますます人口が減っていく中で長浜市は12万人に留めようとか11 万5千人に留めていこうとかいう話かと思うが、このための大きなビジョンでこ れからも、これまでも大変多くの事業をさせていただいている。こういう意味では、 長浜市内だけで生きて行けますよというように、長浜市が一つの国のような考え方 のものという認識で良いか。
事務局	おおむねそのような考え方である。先に説明したように三大都市圏に人口が集中し ている傾向があるので、地方は地方の中で生きていけるようにしていこうというも のである。そうした中でどこもかしこもが同じ機能を持つ必要はなく、中心地域と しての機能、周辺地域としての機能、それぞれを役割分担をして同じ圏域の中で生 活ができるよう維持向上の機能を持たそうというのがこの考えである。
委員	長浜市は合併したので中心市も周辺地域も市全体が圏域になっているということ でよいか。
事務局	そのとおり。
座長	彦根の場合は、中心市が彦根市で周辺地域が多賀や愛荘などで、それぞれが連携し てやっていこうということになりやすいが、長浜の場合は合併してしまったので 中心地域と周辺地域という言い方になっている。ただ、中心地域と周辺地域が連携 しあって安心安全な地域を作っていこうということにはかわりないわけです。
委員	先般、余呉の椿坂に行ってきた。ここは80歳以上のお年寄りの方ばかりで、10 年後にはまちの存続が危うい地域といわれている。そうしたことがこのビジョンの 中には謳われていないといいうのが気になる。 また、できてから2年が経ってこの事業がどのように生かされてきたのか。例え ば地域づくり協議会の事業について予算がついているが、利用に当たっては事務が 非常に煩雑で使いにくい状況になっている。予算があっても利用されないのでは意 味がないので、そういった声を反映していただきたい。 現在、中心市街地の中でまちづくり会社が空き家、空き店舗の調査をされているが、 空き家を活用しようとお見えになられる方に話を聞くと、投資額が非常に高くつ く。投資額を軽減するような補助金を上乘せするなどして、定住人口を増やすシス テムづくりが必要ではないか。 2年が経過した中で、現場に出て行っていただいて、何が問題で進まないのか、予 算が消化できないのか精査して次に生かしていただきたい。
事務局	1点目の椿坂の件ですが、こうした限界集落についてどのようにしていくかという ことは市としても大きな課題である。定住自立圏の考え方では、中心市と同じサー

ビスを展開してもその地域に適したサービスとはならないので、その地域に適したサービス、例えば買い物がしづらくなっているとの声を聞いているので、買い物支援のサービスなども進める予定でいる。こうしたサービスを展開することによって地域の維持を進めていこうと考えている。

地域づくり協議会については、メニューは準備しているが手間が大変との声は聞いている。市では、地域づくり協議会には、手間をわずらわすことがないように、市職員が地域支援職員として直接地域づくり協議会の中に入りこませていただいて、職員としてノウハウのあるものが、そういった事務をやったりアドバイスをしたりしているので、活用いただければと思う。

空き家、空き店舗については、市街地の中に多くなってきており、大きな課題の一つととらえている。空き家に対して移住と居住を促進する補助制度も設けているが、なかなかそこに定住しようとする方がおられないのが実情。PR不足もあるのかもしれないが、なかなか移住が進まず歯がゆいところではある。

座長 共生ビジョンに記載されている事業がたくさんあるが、市の総合計画や他の計画に掲載されている事業との違いはあるのか。また、事業費にかかっている金額はどういう形で国などから支援されるのか。

事務局 長浜市には、基本構想の中で 11 本の施策の大綱を掲げており、その大綱に基づく計画として昨年、中期的計画を策定した。その内容とこのビジョンに掲げてある事業との整合はとっている。

分かりにくいのは、冒頭、石井委員長から話があったように、長浜市の定住自立圏共生ビジョンが合併市の中で策定されていることで、例えば彦根市などでは関連した事業だけを定住の事業として掲げられているが、長浜市の場合は、同じ長浜市の中でやっている事業なので、通常長浜市の事業が定住の事業となっている。そういう意味では、国の財政支援を受けるためには扱いやすい構成となっている。

資料 3-2 にあるように、定住自立圏共生ビジョンに掲載することによって、国から特別交付税の措置を受けることができる。年によって変わるが、平成 25 年度でいうと 1 億 3 千万円くらいの財政措置をいただいている。

委員 長浜市は合併してしまったので、今の長浜市の中で定住自立圏共生ビジョンを策定したが、本来なら長浜市と米原市で定住自立圏を考えるべきとの視点はなかったのか。

事務局 国が平成の大合併を進める中で長浜市は 2 度の合併をした。定住自立圏構想の考え方は、合併がうまくいかない地域が出てきて、合併しなくてもこの定住自立圏の考え方で自治体運営を進めていく必要があるとのことで出てきたものである。彦根市は、合併がうまくできなかった代わりに定住自立圏構想の考えで周辺自治体と連携を進めてこられたもの。

(3) 協議事項

- ・長浜市の人口動態について

事務局説明（省 略）

【意見及び質疑等】

座長	長浜市だけが 1,000 人を超える人口減があるとのことであるが、事務局としてこの理由をどうとらまえているか。
事務局	合計特殊出生率は、全国平均を上回っているが、転出超過が顕著になってきている。平成 21 年までは、旧の長浜市でも人口が増えている状況であった。このときまでは、旧の伊香郡域の人口減の受け皿が旧の長浜地域になっていた。平成 25 年には、長浜が受け切らなくなっている。現在彦根市が人口増となっているように長浜を飛び越えて彦根や草津、大津と南進が進んでいる状況である。細かい分析はできていないが、例えば大学に進学する子供がそのまま帰ってこない。働く場所があまりないといった現象から、生産年齢の人口減が顕著となっている。これらを食い止める策が市としては必要ではないかと考えている。
委員	資料で県内市の人口増減のデータを提示していただいているが、定住自立圏があるので、例えば彦根市であれば彦根市を含む圏域での人口動態のデータで比較すべきである。
事務局	ご指摘のとおりである。彦根市であれば周辺の多賀町や愛荘町は人口が増えているが、甲良町や豊郷町などは人口が減少していると記憶している。
座長	この資料で他の地域と比較すること自体余り意味のないことかもしれない。ただ、高島市の例を見ても長浜市と同様なので、北の地域は同じようなスピードで人口減が進んでいるのかと思う。
委員	そもそも湖北は土地が高い。これがネックとなっている。スマートインター通りも開発が必要かと思うが、あの周辺は土地も安いので中長期的なビジョンを描き、行政が先行投資しておくべき、後手に回らないようにすべきである。旧市内に入っても、道路から一本中に入ると空き地・空き家だらけである。空き家が増えると治安も悪いのと、子供さんは郊外に出て行ってしまい高齢化が進んでいる。このことは自治会でも大きな問題となっている。こういった地域にも 30 代～40 代の人住める中高層のマンションを建てて安い家賃で入れるような思い切った施策を展開していかないと人口は増えていけないと思う。
事務局	定住自立圏構想の最大の目的は、人口流出を防ぐということになっているが、記載の施策が直接その効果を発揮できるかというとなかなか入っていない。これとは別に市として真剣に考えなければならないと思う。 限界集落が余呉や木之本の中山間地域にあります。最大の限界集落は中心市街地にある。そういうことから中心市街地の施策も打たなくてはいけないし、住宅問題や就労対策など事業を打っていく必要があると考えている。

委員	ここにあるような安心安全のようなソフト施策も大事だがハード施策も同時に打っていかなくてはいけないと思っている。
委員	若い人に仕事を紹介することがあるが、まずは長浜に住まわれるが、住んでい るうちに長浜と彦根を比べた場合に長浜が高いことで彦根に行ってしまう。そ のうち仕事も辞められることが多い。木之本や余呉に安い住宅を準備しても南 の方に行ってしまうのではないかと思う。長浜の定住圏で収まればいいけど彦 根に行ってしまう。
	法律的な課題はあると思うが、土地を放さないというのが問題である。工場に しても住宅にしても、売ればいいのに土地を貸すという考えが根付いている。 極端に言うとも条例か何かで厳しく土地を流動化させる策がいるのではないか と思う。
事務局	同じ価格の土地が長浜と彦根にあれば雪の降らない彦根を選ばれてしまう。彦 根に負けない長浜のメリットを作らなければいけないがなかなか難しい。まち 中に空き家はたくさんあるが、その空き家が不動産市場に出回らないのもある と聞いている。借家であってももっと回転良くまわらないかなと思っている。

・長浜市定住自立圏共生ビジョンの見直し(案)について

事務局説明（省 略）

【意見及び質疑等】

座長	それぞれの分野に関することでも良いので全体を総括する中でご意見をいた だきたい。
委員	先ほど椿坂のお話を聞かせていただいて、だんだん人口が減り農業をする人が いなくなったらこの先どうなるのか不安になる。
委員	私は医療の関係ですが、いろいろとやっていただいております。感謝している。湖北 の医療圏においては、早くから病院と診療所の連携ができています。特に市立長 浜病院では全国でも2番目に開放病棟を開設していただいております、他の医療圏 では大きな問題になっているが、湖北においては先進的な取組となっている。 滋賀県全体の在宅看取りの割合が全国で5番目に高く、その中でも湖北は断ト ツで高いということをご承知置きいただきたい。湖北で医療に携わっていただ いている先生方の力添えもある結果である。 それと資料の中で「つなごう子どもと本、けやきっ子プロジェクト」があるが、 市内の図書館も全国に誇れるキラリと輝く取組をしていただいているが、学校 図書室に司書を置くという人的、財政的余力はないかもしれないので図書館の 司書と学校図書館とがうまく連携して学校図書室の充実をお願いしたいと思 う。このビジョンに書き込んでいただけると図書館側も動きやすいのではない かと思う。 防災のことについても医師会としては積極的に取り組んでいかなくてははいけ

事務局

ないと行政に声かけさせていただいて連携してやっていただきたいと思います。ということで行政側の職員が防災の研修に出ていただいているのかわからないが、今日は3.11でもある。そのあたりもお願いできればと思う。

学校の図書館司書は、来年度からモデル的に配置し順次広めていく予定である。

防災の研修についても、職員の参集訓練や災害時の非常体制の訓練等行っている。昨年の大雨時に避難命令が出されたが、その反省も含め職員の対応の訓練を引き続き進めていく予定である。

座長

この庁舎は最新鋭の防災機能が備わった庁舎である。十分活用していただきたい。

委員

これらの事業を予算化していただいたので、しっかりと消化できるシステム作りをお願いしたい。

最近通学路に車が突っ込んできたりするなど痛ましい事故がある。これらから守るためにヘルメットの着用を進められているが、このヘルメットの購入を後援会に求められていると聞いている。これらは行政が購入するのが当たり前と思う。時代の流れにあった対応をお願いしたい。

地域づくり協議会の設立に向けてとあるが、地域づくり協議会は24地区でできているので、修正を加えていただきたい。

座長

地域づくり協議会については、削除の項目にいれてある。

委員

若い保護者が小さい子供を預けるところがないということで、民間の保育園ができてきた。それとともに市でも認定子ども園ができ、将来的に高月と木之本が子ども園になるということは、それだけニーズが強いということで、このことで現在長浜にお住まいの人を留め、更に外から人を呼ぶということが充実しているということをPRしていくことが重要なことと思う。旧の長浜市内でも幼稚園の子供の数が減っているとのこと。若いお母さん方が仕事をしたいということから幼稚園離れが出ているのではないかと思うので、更に進めていただきたい。

市外から人を呼び込むことも重要であるが、今長浜にいる若い世代の人が地域に根差していくことが必要ではないかと思う。新聞を見ていると過疎化の進んでいる地域では結婚したら出ていく、教育の面、仕事の面など利便性を求めて南に出ていくということが書いてあったが、そのあたりをどうしていくかを考えた時に、市の広報で中学生にこんな長浜市にして欲しいというのが書いてあったかと思う。その中で更に地域を良くするためにという問いに対して「人とかわっていくこと」「地域の行事に参加していくこと」「コミュニケーション」これらを大事にしていくと私たちの住んでいる地域が良くなるという意見が書かれていた。そういったことから今の中学生や高校生が自分達の住む長浜市がいいところだということを自覚し、大学に出て行ってからも、もう一度長浜に帰ってくるというまちを作っていけたらと思う。私が生涯学習課にいた時に成人式を行政がやるのではなく成人する子供たちが企画運営をするという事

事務局

業を立ち上げた。20代前後の若者をこういった事業の中にいかに組み込んで行くか、改めて自分のまちを見直す機会にしていっていただくというようなものをしていただければと思う。

委員

現在長浜子育て憲章の策定作業を行っており、その中で子供たちにとってどうあるべきか、子を育てる親にとってどうすべきかということに対して、よりどころになるものを作っているところである。これに基づく事業ということで、今委員が話された事業も進めていきたいと考えているところである。

私は西黒田地域で活動をしているが、待っていてはだめだと感じている。長浜市の高齢化率も年々上昇してきており、西黒田地区は旧長浜の中ではナンバー1となっている中で、どうしたら西黒田の人たちの流出を防げるかと考えて、今私の法人では子供達からお年寄り、しょうがい者の方が集えるイベント的な場を設けて提供しているが、これを日常的に開設できるように長浜市や滋賀県に持ちかけて進めているところである。その中で子供とのふれあいに関しては将来その子たちが介護の職についてくれるかもしれない、婚活については、シングル同士がくっついてくれると、お子さんができたとしてもお互いの介護の担い手になってもらえるのです。女性が強くなっているから結婚が進まないのではという意見から、都会から旦那さんを連れて帰ってくるような仕組みを作ってはどうかなど、自分たちが知恵を出して地域の方に話し合いをしてもらって、地域の中でできることをやっていき、そして行政も巻き込んでいこうと思っている。

行政に対しては、縦割りのことが気になっており、数日前も相談があったが、子育てのことは子育て支援課に行っておられるが、上のお子さんは障害があるのしょうがい福祉課へ、下のお子さんを預かってもらう時には子育て支援課とうことで、一つの家族を考えたら一つの窓口にならないかと思っている。

それと周辺地域という言葉はあまり気持ちいいものではないと思う。木之本や余呉、西浅井などもそれぞれの特徴があって頑張っておられるので、たくさん長浜が好きな人がいるので「人」が長浜のキーになると思う。

委員

掲載の事業は、定住自立圏の事業ということで特別交付税の対象となっているが、合併特例債とは別か。また、この事業以外に、これを踏まえた事業はあるのか。

事務局

合併特例債とは別の特別交付税となっている。また、今回提示させていただいた事業以外にも、定住を推進する事業は他にもある。

委員

周辺地域という言い方に抵抗がないことはないが、新しい大きな長浜市になって、それぞれの特性を生かして定住を進めて欲しいと思う。私は、この地域は滋賀県の中でも特に魅力のある地域だと思っている。冬になると北部では雪が多く降るが、気候の違いというのは、よその地域では味わえないものではないかと思う。これを一つの地域力に変えて行けないかと思う。

農業についても、米原あたりは日本の農業の北と南の境になっていた。そういう意味で滋賀県は日本のど真ん中でありながら、雪を味わえたりもする。私は

いいところにいると思っているし、樺坂にしても車で 30 分もすれば行けると
ころであるし、中河内にしてもスキー場があり、すぐに行ける。そういう意味
でこの地域は地力というものを持っているのではないかと思う。全体で長浜市
のことを考えていただければと思う。

定住に関しては、外から来てもらうよりもむしろ結婚しない人について考えな
くてはいけないと思う。男性で 27～28%、女性で 24～25%らしいが、これらの
割合を半分くらいにすれば少子化は防げると思う。この地で生まれた人がこの
地で結婚をし、そしてこの地で生活してもらうことを行政として策を打ってほ
しいなと思う。

座長 行政も婚活事業にまじめに取り組んで、川村さんのような面倒見のいい人をう
まく活用して真剣に取り組んだらどうかと思う。

事務局 市でも結婚支援事業として、いわゆる婚活パーティの支援や独自の事業も立ち
上げている。一昨年までは農家の花嫁対策として行ってきたが、昨年から
市の所管課も社会福祉課に移して社会全体の問題として取り組んでいる。

委員 長浜北商工会は、旧の伊香郡の商工会が合併し、できて間もなく丸 1 年となる。
特に地元のことを考えて活動もしている。先ほどの資料を見てもがっかりして
いるが、北部地域は図抜けて人口が減っている。今後も増えるということとはな
く、これからも人口の減少は進むが、ある程度の人口に達したら減少も止まると
思う。ただ、それがいつになるのか。また、田舎に住んでもらうには働くところ
がないとだめなわけで、それならどういうことをすべきか、そんなところ
を考える。

地産地消というものも考えていかなければいけない。コンビニやスーパーがで
きて地元の商店というのはなくなってきてしまった。そしてコミュニティもな
くなってきている。日本国中同じコンビニやスーパーが並んでいる、そんなも
のを我々は望んでいるのではないと思う。田舎のコミュニティが煩わしいから
高月や長浜に出て行ってしまうという傾向が続いている。

こうしたところは教育の面から考えないといけない。地域住民を守るのは地域
だと思う。大手のスーパーやコンビニではいろんな新しいサービスを展開され
ているが、地域を守ってはくれない。なんとか旧の伊香郡で産業が生まれてこ
ないかと思う。このまま放っておけば、衰退する一方で、横ばいか 95%でもよ
いので新しい試みを進めなくてはいけない。そういう意味で地域に残っている
農業や林業といった地域の資源を復活させて、それを地域に還元させるような
新しい産業を模索している。新しいエネルギーの取組も進めており、せめて 5%
でも 10%でもいいので、そういったものができれば携わってくれる人も集まっ
てくれるのではないかと思う。

去年から空き家対策を初めて、8 件の応募があり 4 件契約が決まった。件数は
まだ余り多くはないが、地域の中で徐々に理解していただいていると思ってい
る。

現在、官兵衛博の影響もあり木之本の町には毎日 5～6 台の観光バスが来て 200

委員

人くらいの観光客がお出でいただいている。ありがたい状況であるが、それに対しても対応ができていない。来年は、それも終わるのでポスト官兵衛を地域の人にも声かけをして考えていきたい。これは、商工会だけでもダメだし、観光協会だけでもダメで、地域ぐるみで地域づくりをしなくてはいけないと思っている。このように地域のことは地域で自活できるように頑張っていきたい。現在官兵衛博、3年前が江浅井三姉妹博、その前が秀吉博とイベントをやっているが、秀吉博の時は市街地だけでお客さんを集めている状況であったが、三姉妹博あたりから市全域を博覧会にしていこうということで進めて、木之本や小谷など箱モノを作らずに、いろんなところに行ってもらってる。こうした中で一番成功したと思うのが、ボランティアガイドの活躍である。ボランティアガイドが、木之本で200人、長浜でも100人が一生懸命勉強されて熱心に取り組んでいただいている。年齢層は60過ぎの定年したての方で、その方々のやりがいにもなっているし、観光のお客さんも元気な田舎がいいのではないかと思う。観光客は、長浜に来ていただいて喜んでもらえて、迎える側もそれをやりがい生きていくという一番いい考え方ではないかと思う。

ほかには、茶わん祭がそうであるが、地元のお祭りをやってもらうのが大事で、中々開催することは大変かと思うがやって欲しい。曳山祭がそうであるが、地域のコミュニケーションが保ててうまくできているのではないかと思う。よって、人がいなくなってお金がなくなっている中ではあるが、それらを支援してなんとかやっていただけないかなと思う。それが観光に結び付き、それを説明するボランティアガイドが必要になってくる。ボランティアガイドのお年寄り自分たちの生きがいになっていくといいように転がっていく。

それと、長浜の交通の便が非常に悪い。路線バスは、普段から余り乗車されていないと思うが、土日には観光客に乗ってもらえるようなルートにしていだけないか。そうすることによって、ボランティアガイドにも乗ってもらって観光案内をし、同時に乗っている地域の住民の方にも改めて地域の良さに気付いてもらえるのではないか。こういう会議に市の関係の方に来ていただいて、こういう話を聞いていただきたい。

観音の件についても企画政策課が中心にやっていただいているが、関係課が連携して進めていただきたい。長浜の観音さんは地域の生活に息づいている。是非ともこういう文化を全国に知ってもらって、観光にもつなげていただければと思う。

座長

皆さんはそれぞれの分野において長浜で活躍されているのでいろいろとお話されたいこともあったのかと思う。

(4) 報告事項

- ・平成25年度定住自立検討推進調査事業について

事務局説明（省 略）

座長 大河ドラマの軍師官兵衛もようやく長浜も出てきて、ラッピング電車も姫路と長浜を往復するなど、うまく連携されているなど感じた。
今後もこういった事業を通じて定住に向けての施策を進めていただきたい。

6 その他

次回（第2回）会議の日程調整について

頂いたご意見は議事録として取りまとめるとともに、庁内各課に周知し、施策に反映させていきたい。

当懇談会については、6月下旬か7月下旬に第2回目を開催したいと考えている。第2回目では平成27年度以降の事業に向けてのご意見を頂戴したいと思っている。

事前に日程調整もさせていただくのでよろしくお願いしたい。

委員 資料の定住自立圏共生ビジョン17ページの「エ 産業振興」の説明書きの「持続可能な農業水産の振興を図る」とあるが「林業」も加えていただきたい。

（了）

7 閉会